

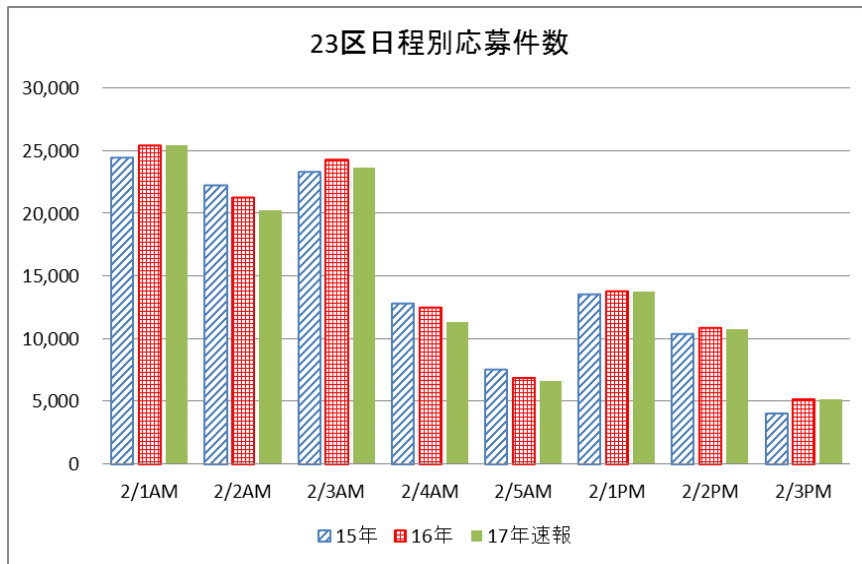
東京23区私国立中入試概況

1. 概況 児童数減少の中で中学受験者数は小幅ながら増加が続く

東京23区の公立小6児童数は義務教育学校も含め約58,000名で、昨年より約800名減っています。昨年も減っていましたが、今年の方が減少の幅が大きくなっています。東京23区内中の中学受験の応募総数は、私立、国立、公立一貫校の合計で、2月15日現在、1月までの帰国入試を含めて約123,600件です。入試結果未公表の学校や、3月に二次募集を行う学校もあり、最終的にはこれらの応募者数が上乘せされますが、昨年の最終は約127,000件でしたから、

昨年水準に達していません。最終的にも届くのは難しいでしょう。実際の受験者数は2月15日現在で昨年とほぼ同数となっていて、最終的には昨年少し上回るでしょう。応募総数が減って実際の受験者数が増えるのは、私立中学入試では、実際には受験しないのにあらかじめ出願することが珍しくなく、昨年は東京23区では応募(出願)総数の三分之一が欠席だったくらいです。今年はこの欠席率が下がっているわけです。一昨年版のこの資料集で、東京23区については「中学受験減少傾向が止まった」、昨年版では「増加に転じた」と書きました。今年も、小幅ですが増加傾向が続いていると言ってよいでしょう。

上のグラフは東京23区内の2月1日以降の中学受験の応募者数を日程別に合計し、一昨年、昨年と比較したものです。今年は速報値で、私立、国立、公立一貫校の合計ですが、都内で実施される地方寮制校の入試は含んでいません。グラフのように、どの日程も応募者数は昨年並みか、少し減っています。特に午前入試は2月2日～5日まで、速報値はいずれもマイナスです。1日午前、多くの中学受験生が第一志望校に挑戦していますが、こちらは減っていません。また、2日以降の午前入試が減っているのに対して、午後



入試は昨年とほとんど同じ水準です。規模は午前入試よりも小さいのですが、午後入試で魅力的な学校が増えて、以前のような「午後入試は第三、第四志望」という受験生が減り、「第二志望」の受験生が増えてきた結果です。なお、3日午前の減少は、都内の公立一貫校が、以前ほど応募者を集めなくなったことも理由です。人気下がったのではなく、高倍率を敬遠する動きでしょう。グラフに載っていない1月までに行われる帰国生入試も応募者は増えています。

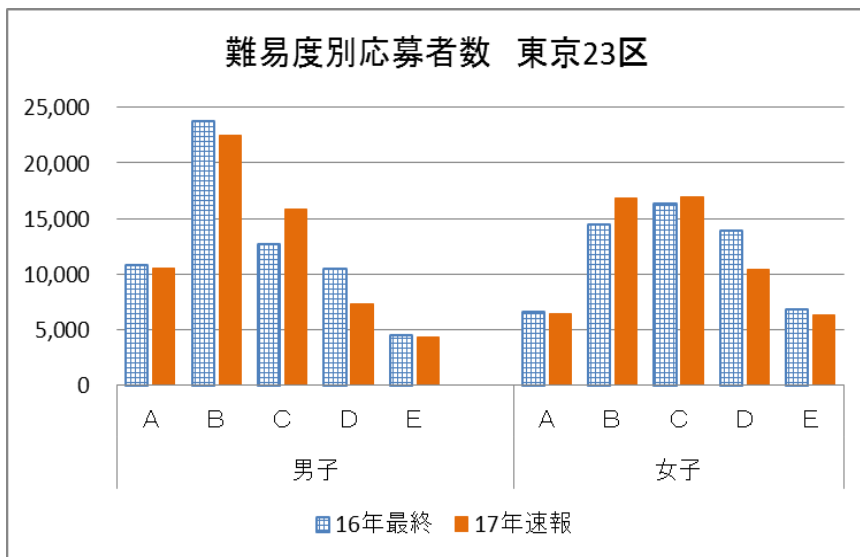
神奈川県は23区と同じで帰国以外の入試が2月1日から始まります。神奈川県のページで取り上げているように、神奈川県では東京志向が強くなっていて、1日午前の県内中学受験の応募者が減っています。その割に23区の2月1日の応募者は増えていませんが、全体総括で取り上げたように、柔軟な出願手続きを行う学校が増えてきて、必要以上の出願が抑えられてきたために、応募総数は減少しています。1日午前の23区応募者数が減らなかったのは、神奈川県からの受験生が少し増えているために、応募総数減少傾向とバランスしたためでしょう。

今度は、難易度による志望校選択の傾向を見てみます。次のページのグラフは、各校の応募者数を難易度

別に上からA～Eの5段階にグルーピングして合計し、昨年と比べたものです。グルーピングは各年の入試直前の予想難易度をもとにしていて、毎年の受験生がどの難易度の学校をどれだけ希望しているかを表しています。公立一貫校は受験生の学力分布が幅広いため外しています。共学・別学校の応募者はそれぞれ男女別で集計し、男子校・女子校と合計していますが、男女別の内訳が未公表の学校は応募者数の半分ずつをそれぞれ男子・女子で合計しました。昨年

は昨年用の予想難易度、今年は今年用の難易度を用いていますので、それぞれのグループに含まれる学校は、昨年最終と今年とでは異なる場合があります。今年のグルーピングは15ページに一覧の形で掲載しました。全体的な傾向では、男子は上位校のBグループの応募者がダントツに多く、全体の4割近くになります。次に多いのがCグループ、その次が昨年はA・Dグループでしたが、今年はDグループが減って差がついています。一番の少数派はEグループです。昨年版のこの資料集では「人気はDグループの学校まで、が実態です」と書きましたが、昨年は10,000件を超えた応募者数が、今年は7,000件余りととどまっています。人気は下降していて、このままDグループの応募者が減っていくと「人気はCグループまで」と書くことになるかもしれません。昨年との対比では、Cグループが約3,000件の増加ですが、他のグループはDだけでなくいずれも減っていて、Bグループも1,000件を超える減少です。Cグループの増加は、Bグループの学校を考えていた受験生が安全志向でCグループに切り替えたことと、Dグループを考えている受験生が、「せめてCグループの学校に」で挑戦したことによる増加でしょう。

今年の女子はB・Cグループがほぼ同じで最多で昨年より増加しており、Dグループはそれより6,000件以上少なく、A・Eグループはさらに少なくなっています。昨年ならCグループを頂点とする山型の分布でしたが、男子同様今年はDグループが減っています。やはり「せめてCグループの学校に」と考える受験生



が多いのでしょうか。A・Eグループは若干減っていますが、もともとメジャーだったのはB～Dグループで、A・Eグループは23区内の中学受験界では別格的存在になっています。これは男子にも当てはまりますが、Aグループは男子よりも女子の挑戦が少なく、Eグループは女子の方が多いのが男女別の学校選択志向の違いです。

続いて各校の様子を簡単にご紹介します。都立の中高一貫各校と区立九段中等は公立一貫校の概況をご覧ください。

2. 男子校

<難関校～中上位校>

まず男子御三家3校から。開成も麻布も昨年は概ね一昨年並みの応募者数でした。開成は、厳密には微減ですが昨年並みと言ってよい応募者数でした。合格最低点も昨年並みで、今年も高難度の厳しい入試でした。麻布は、昨年は概ね前年並みの応募者数でしたが、今年は増えています。合格最低点は昨年並みで、難度に変化は見られません。武蔵は2013年から昨年まで隔年的に応募者の増減を繰り返していましたが、今年ほぼ昨年並みの応募者数で、隔年現象は止まっています。近年、以前よりも入り易くなってきたこともあって、実力的にはやや力不足気味の受験生が少し増えていたようですが、こうした動きが止まって安定した受験者層になったようです。合格最低点は昨年並みで、難度に変化は見られませんでした。

御三家と並ぶ難関校の駒場東邦は、一昨年が前年並

みの応募者数で、昨年、今年と少しずつ減っています。昨年よりも合格最低点は上がって少し難化しているようですから、人気下がったのではなく、無理な挑戦をしようとする受験生が減ったのでしょう。国立の筑波大駒場は、昨年は応募者が増えていましたが、今年は減っています。実際の受験者数も減っていますが、合格最低点は上昇しました。昨年よりも得点しやすい出題が増えたようですが、それよりも受験生が絞られたと考えた方がよいのかもしれませんが、今年も高難度の入試でした。

海城は、昨年は帰国入試の応募者がやや減ったものの、2月1日の1回、3日の2回とも増加しましたが、今年は帰国入試が昨年並み、1回はやや減、2回は減っています。帰国入試は別として、1・2回は隔年現象でしょう。合格最低点は、帰国入試はやや上下していますが、1・2回は昨年並みで、難度に変化は見られません。早稲田は昨年、2月1日の1回、3日の2回とも応募者がやや減っていましたが、今年は少し増えている、隔年現象的な変化になっています。昨年は1回の合格最低点の上昇が目立ちましたが、今年は少し下がっています。入り易くなったのではなく、出題が少し難しくなったのでしょう。2回は昨年並みで、難度は特に変化していないようです。

暁星は近年隔年現象で応募者が増減していますが、順番通り今年はやや減りました。合格最低点は目立って下がっています。出題が得点しにくかった面はありますが、難度面でも少し入り易くなっているかもしれません。芝は昨年、2月1・4日の1・2回とも応募者が増えていましたが、今年は2回ともやや減っています。一昨年も少し減っていましたが隔年現象的な人気の変化です。1回は合格最低点がやや下がっていますが、少し出題が難しかったようで、難度面ではあまり変わっていないようです。2回は昨年並みで安定しています。

城北は一昨年、各回とも応募者数が減っていて、昨年は2月1日の1回が大きく減少、2日の2回は前年並み、4日の3回は増加していました。今年は1回がやや増加、2・3回は少し減っています。昨年の1回の大幅減少は多摩地区の桐朋が2回入試に移行した影響でしたが、今年は少し人気を盛り返しています。2・3回も応募者は減ったものの、実際の受験者数は昨年並みでした。合格最低点は1回がやや下がり、2回が少

し上がっていますが、難度面ではあまり大きくは動いていません。ただ、3回は下がっていて、最後まで諦めずに挑戦した受験生には良い結果でした。巣鴨は一昨年まで応募者が減っていましたが、昨年は2月1日のI期・2日のII期とも前年並みでした。今年は再びやや減っています。ただ、比較的高い難度の学校ですから、目立って入り易くなったわけではあません。

本郷は、昨年は各回とも前年並みの応募者数でしたが、今年は2月1・2日の1・2回が増加して人気が上がりました。5日の3回は昨年並みの応募者数ですが、実際の受験者数がやや減っています。1・2回の不合格者で、最後まで挑戦を続けようとする受験生が少し減ったのでしょう。合格最低点は各回とも昨年並みで、難度に変化は見られませんでした。

攻玉社は、昨年は国際学級の応募者数が前年並み、2月1日の1回、2日の2回、5日の特別選抜とも少し増えていましたが、今年は各回とも減っています。隔年的な変化ですが、世田谷学園が入試で特待を新設したことも影響しているかもしれません。合格最低点は国際学級の英語選択が少し下がっていますが、他の選択や回次は昨年並みで、応募者・受験者が減っても入り易くなるようなことはなかったようです。

その世田谷学園は一昨年、昨年と、各回合計の応募者数が減っていましたが、今年は2月1日の1回、2日の2回で特待合格を出すこととしたため、歓迎した受験生が多く、特待の設定がない5日の3回も含めて応募者は各回とも増加しました。実際の受験者数の増加率も、応募者数の伸びよりも大きく、欠席者が減っています。このため、各回とも合格最低点は上昇、難化した厳しい入試になりました。

東京都市大付属は一昨年まで各回合計の応募者数が5,000名を超えていて、首都圏男子校では最大の応募者数の学校でしたが、昨年大きく減少して3,700名あまりになりました。今年もその傾向が続いていて応募者が減っています。それでも合計は3,000名を超えていますから、男子校ではトップの応募者数です。減った理由は難化が進みすぎたからで、同校は上位コースのII類と、比較的入り易いI類の2コース制ですが、難化が進んでI類の合格も難しいと感じる受験生が増えてきた、一般入試が4回実施で、再チャレンジでII類を目指したいのに実際にはなかなか合格できない、といった点から、ハードルが高いと感じる受験生が増

えてきたのでしょうか。難度面ではⅡ・Ⅰ類各回とも昨年とあまり変わっていないようです。

内部進学率が高い大学附属校では、早大学院は、あまり大きな幅ではありませんが、隔年現象で応募者が増減しています。今年は順番通り増えました。慶應系各校の男子は少し応募者が減っていますので、こちらに流れた受験生もいたようです。もともと高難度ですから、少々応募者が増えても難度に大きな変化はなかったようです。立教池袋も附属カラーが強い学校で、昨年まで隔年的な応募者数の増減が見られ、昨年は少し増えていましたが、今年は帰国入試が少し増えて、2月2日の1回、5日の2回は昨年並みです。合格最低点は今年も特に変化がなく、安定した難度が続いています。

学習院は、2月1日の1回、3日の2回とも応募者が少し減っています。昨年は1・2回とも増加、一昨年は減少、その前は増加していましたから、きれいに隔年現象で順番通りの結果です。1回は合格最低点が下がっていて、少し入り易くなったようです。この点も昨年と逆ですから隔年現象です。2回も少し下がっていますが、こちらはもともと高倍率で補欠も出していますから、むしろ得点しにくい出題が多かったようで、昨年に近い難度でしょう。明大中野は、昨年は2月2日の1回の応募者がやや減少、4日の2回は増えていましたが、今年は1・2回とも増えています。実際の受験者数も増えていて、1回は合格者を昨年よりも絞っていますが、2回は少し増やしました。しかし、合格最低点は1・2回とも昨年並みで、合格者数の変動は何か狙いがあることよりも、学校が期待する水準に達したかどうかで判断したようです。ですが難度に変化は見られません。

＜中上位校～中堅までの各校＞

芝浦工大は 2017 年度から豊洲の新校舎に移転、校名も「芝浦工大附属」となり、新たに出発します。「附属」といっても、中学入学生は他大学に進学するケースが多く、高校入学生は内部進学者が多い学校です。長年男子校でしたが、高校入学生は 2017 年度から女子クラスも新設して「リケジョ」を育成していくことになっています。中学は男子校のままです。同時に、入試科目も 4 科から社会を外した国算理に変更されました。関西では主流の入試科目ですが、首都圏では珍し

いものです。配点も国算各 100 点、理科 80 点、社会 60 点の 340 点満点が、国算各 120 点、理科 100 点の 340 点満点に変更されました。

帰国入試、3 回の一般入試とも応募者がかなり増えています。豊洲というと、築地市場移転問題で盛んに報道されていますが、同校の新校地は旧東京電力の敷地で汚染とは無縁とのことで、比較的早期に完成した新校舎での説明会も盛況でした。板橋からの移転で通学圏が変化しますが、豊洲が近い受験生にも好感度が上がったことから応募者が増加しています。340 点満点は変わりませんが、科目が変わったため、合格最低点の単純比較はできませんが、2月1日の1回はやや難化、2日の2回と4日の3回は昨年並みの難度だったようです。

獨協も附属校カラーはほとんど見られません。昨年は2月1日の1回と4日の3回が前年並みの応募者数、2日の2回が応募者減でしたが、今年は各回とも減っています。人気落ちついていることは確かですが、昨年からウェブ出願に切り替えて、無駄を承知の事前出願が減ったことも理由です。合格最低点は1・2回が昨年並み、3回はやや上がっていて、少し難化したようですから、応募者減少傾向が続いても、決して入り易くはなりません。一方、日大豊山は附属カラーの強い学校で、昨年に続いて今年も各回とも応募者が増えていて人気が上がっています。特に2月2日午後の2回と3日午前の3回は合格最低点が少し上がっていて、難化しているようです。1日午前の1回と3日午後の4回も昨年並みで、難度は特に変わっていません。

純粋な進学校では、成城は近年各回の応募者増が続いていて、昨年は2月5日の3回の応募者が増加、2月1日・2日の1・2回が前年並みに落ち着いて、応募者数増加傾向も緩和してきていましたが、今年は各回とも少し減っています。人気反転しました。難化が進みすぎたためでしょう。合格最低点は各回とも少しずつ下がっていて、難度面でも一段落した入試でした。高輪は昨年、帰国入試が前年並みの応募者数、2月2日午後の算数入試で応募者が少し増えて、他の回はやや減っていましたが、今年は算数入試がやや減ったものの、他の入試は前年並みか応募者が増加していて、各回合計でもやや増えています。その応募者が減った算数入試の合格最低点が上がっていて、この入試は応

募者が減っても受験生が絞られただけだったことが分かります。他の回もほぼ昨年並みで、難度はあまり変化していないようです。

佼成学園は各回とも応募者が増えています。一昨年、昨年に続く増加で人気が上がっています。2月1日午前と2日午前の適性検査型入試の内容を入れ替えているため、この2つは単純比較できませんが、他の入試は合格最低点や特奨基準点が上昇、特に1日午前・2日午前・5日の通常の入試の2科は上昇が目立っています。昨年は応募者が増えても合格最低点はやや下降気味だったことと比べると、全く異なる状況です。昨年より得点しやすい出題が多くなった面もあるとは思われますが、各回とも難化、予想しなかった不合格でがっかりしている受験生もいたでしょう。

特選・中高一貫の2コース制の京華は、昨年に続いて各回合計の応募者が少し減っています。昨年の減少は2月1日午後の一貫コースの入試を廃止して、特選コースのみに絞ったことで、「安全」を求める受験生が避けるようになったためですが、この結果、今年はさらに「特選コース主体の学校」のイメージが強くなっています。ハードルが高いと考えて敬遠した受験生が増えたのかもしれませんが。特選、中高一貫とも各回の合格最低点は昨年並みで、難度に変化はなかったようです。

特奨入試を行っている足立学園は、2月1日午前に適性検査型の特奨入試を新設しました。昨年は各回合計の応募者数が増えていましたが、今年は減っています。しかし、実際の受験者数は昨年とほぼ同じで、後半の日程での欠席者が減っています。あらかじめ遅い日程まで複数回出願しておこう、という受験生が減少したための応募者減で、人気は昨年と変わっていないこととなります。合格最低点は一部の回次で少し動きが見られますが、出題難度の差異によるものと考えられます。補欠を出していることから、各回とも偏差値面での難度は昨年並みでしょう。

聖学院は、入試回次ごとの科目設定を入れ替えるなどの変更がありました。昨年は各回合計では一昨年並みの応募者数でしたが、今年は2月1日午後が昨年並みの応募者数だったものの、他の回次は減っています。思考力型入試を実施していて、回次ごとの入試科目を入れ替えた影響かもしれません。科目が変わっている入試があるため、合格最低点が比較できない入試もあ

りますが、総じて2月1日午前午後は昨年並みの最低点で難度も特に変化はなく、2月2日以降は少し入り易くなったようです。日本学園は、今年は応募者が減って、小規模な入試でした。入試の難度も昨年とあまり変わっていないようです。

3. 女子校

<難関校～中上位校>

一昨年はいわゆるサンデーショックでプロテスタント校を中心に日程移動で入試状況が変化し、昨年はその戻りで女子御三家の桜蔭、女子学院、雙葉はいずれも応募者が減りました。今年は桜蔭と女子学院がやや応募者を減らしています。ただ、両校とも難度に影響するほどではなく、高難度の厳しい入試でした。一方、雙葉は厳密には応募者が増えていますが、昨年並みと言ってよい応募者数でした。合格最低点も昨年並みで難度に変化はありません。3校とも安定した入試でした。

御三家に続く豊島岡女子は、昨年はサンデーショックの戻りの影響を受けて2月2日の1回と4日の3回の応募者が増加、3日の2回は前年並みでしたが、今年は各回ともやや減っています。ただ、特に3回は昨年並みと言ってもよいような小幅です。合格最低点は1・3回が少し下がり、2回は若干下がっているものの昨年並みの水準ですが、もともと高難度ですから、入り易くなった印象はありません。白百合学園は帰国入試を別として一般入試は2月2日の1回だけです。昨年はサンデーショックの戻りの影響で応募者が大きく増えました。今年は昨年並みですが、合格最低点は少し上がっていて、やや難化したようです。

鷗友学園は昨年、それまで3回実施していた入試を、2月1日と3日の2回だけとして応募者は大きく減りました。今年は特に入試に変更はありません。1日の1回は応募者がやや増加、2回は減少していますが、合格最低点は2回とも昨年並みで、難度に変化は見られません。応募者の減少は、特に1回不合格で2回に再挑戦していた受験者層が、難度を敬遠して他校に流れたからでしょう。学習院女子は、昨年は2月1日のA入試、3日のB入試とも応募者が減っていましたが、今年は増えています。一昨年は全く逆の動きで、隔年現象的な動きですが、昨年はサンデーショックの戻りの影響が強かったため、人気そのものが上向きなので

しょう。Aの合格最低点は若干下がっていますが難度が変わるほどではなく、Bは下がって少し入り易くなったかもしれません。今年は1日に他校を受験、3日に同校に挑戦した受験生が昨年よりも多く、その影響でしょう。

立教女学院は、サンデーショックの戻りで昨年は応募者は大きく減りましたが、今年は帰国・一般とも増加しました。合格最低点は昨年が続いて今年も上がっていて8割を超えました。出題がやや得点しやすくなったようですが、高学力の受験生が増えていることも確かです。ただ、8割を超える水準になると、学力よりも「ちょっとしたミス」が不合格につながるため、辛かった受験生もいたでしょう。東洋英和も昨年はサンデーショックの戻りで2月1日のAは応募者が小幅の減少、Bは前年を上回りましたが、今年は各回とも少し応募者が減っています。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、A・Bとも少し入り易くなったかもしれません。頌栄女子学院もプロテスタント校ですが、今年は12月と2月1日の帰国生入試の応募者が増えたものの、1日の一般1回と5日の2回は少し減っています。昨年は1回がやや減って、2回は増えました。今年は人気落ち着いてきたようです。合格最低点もこれに合わせて1回がやや下がっていますが、2回は昨年並みで、難度を維持しています。

普連士学園もプロテスタント校で、頌栄女子学院同様、同校自身はサンデーショックでも入試日程は動かない学校ですが、昨年は他校のサンデーショックの戻りの影響を受けていて、2月1日の1次は応募者が減っていましたが、2日午後の2次と4日の3次は応募者が大きく増えていました。今年は1次が昨年並みの応募者数、2・3次は減りました。他校併願の受験生が減っています。1次の合格最低点は昨年並みで、難度が安定していますが、2次と3次は昨年上がって難化したのが、今年は下がっています。ただ、一昨年よりは高い水準で、一昨年の難度には戻っていないようです。

カトリックの光塩女子は、それまで2月4日の入試内で並行して実施していた総合型の入試を独立させて1日に実施、4科の入試を2・3日の2回実施として、応募者数はほぼ前年並みだったものの、特に2・3日は実際の受験者数が減っていましたが、今年は総合型の応募者が増加、2・3日は昨年並みで、特に3日は実受

験者の増加が目立ちました。総合型は欠席者がおらず、受験生に浸透してきています。合格最低点は総合型が昨年並みでしたが、4科の2・3日は上昇、難化した厳しい入試だったようです。

大妻はキリスト教の学校ではありませんが、サンデーショックの戻りの影響を受けていて、昨年は2月1日の1回が応募者減、2・3日の2・3回は増加していました。今年は各回とも少し減っています。ただ、1回は昨年少し下がった合格最低点が上昇、やや難化しました。受験生が絞られたようです。2・3回は昨年並みで、難度に特に変化はなさそうです。共立女子も同様に昨年はサンデーショックの戻りの影響を受けて、2月2日のB入試の応募者が増えていました。1日のA入試は前年並み、4日のC入試はやや減っていました。昨年からC入試を4科から算数+合教科論述型に変更していて、グローバル化対応を進めていますが、昨年のCの減少はこの影響もあります。今年は帰国が昨年並みの応募者数でしたが、他の入試は少しずつ応募者が減っています。ただ、合格最低点は各回とも昨年並みで、難度は変わっていないようです。

<中上位校～中堅前後までの各校>

東京女学館は、一般学級・国際学級の2コース制で、昨年は各回合計の応募者が少し減っていましたが、今年は2月1日午後・2日午後の2・3回の応募者が増えています。他校併願前提の受験生が増えています。以前の同校は高い志望順位の受験生が中心でしたが、変わってきました。他の回や国際学級も概ね昨年並みの応募者数で、合計でも応募者増となっています。合格最低点は1日午前の1回が少し上がっていて、やや難化したようです。他の回は昨年とあまり変わりません。難度面では安定しています。

富士見は、昨年は2月1日の1回と3日の3回の応募者がやや減少、2日の2回は増えていましたが、今年は各回とも少し減っています。今年は3回の合格最低点がやや下がっていて、1・2回は昨年並みですが、補欠を出していることもあり、難度面では各回ともあまり昨年と変わっていないようです。江戸川女子は、昨年は各回の応募者が増加、それまでの減少傾向から人気反転しましたが、今年は2月3日の3回がやや増えたほかは各回とも昨年並みの応募者数でした。実際の受験者数は3回も含めて昨年並み、合格最低点も

昨年並みで、難度に変化はなく、安定した入試でした。

山脇学園は昨年、グローバル対応の英語特別枠入試を各回で実施、2月1日の1回、2日の2回、4日の3回とも英語特別枠入試の分だけ応募者が増えていました。今年は帰国生入試の応募者は増えていますが、1回が昨年並みの応募者数、2・3回はやや減っています。しかし、実際の受験者数は3回が減ったものの、他の回が少しずつ増えて各回合計では増加しています。合格最低点は各回とも昨年並みで、難度は特に変わっていないようです。

十文字はこのところ毎年入試に変更があり、今年は2月2日午前の思考力特待を1日午前に移動、2日午後のスーパー型特待と午前のチャレンジ型を入れ替え、4日午前に算数・英語の選択の得意型特待を新設するなどの変更がありました。昨年は各回合計の応募者数が若干減っていましたが、今年は大きく増えて人気が上がっています。現在教務面を中心とした学校改革を進めていて、こうした姿勢が受験生に評価されたのでしょう。実際の受験者数も増えていますが、合格最低点はチャレンジ型の英語選択が上がったものの、その他の回次や科目選択は昨年並みで、難度はあまり変わっていません。実践女子学園は普通(SJC)と国際学級(GSC)の2コース制で、グローバル化対応の先鞭をつけた学校の1つです。しかし、一昨年、昨年と応募者が減少傾向で今年も変わらず、各回とも少しずつ減っています。2月2日の2回は合格最低点が下がって少し入り易くなったようです。1日午前の1回、午後の国際学級、3日の3回は昨年並みで、難度はあまり変わっていません。

大妻中野はアドバンスト、コア、グローバルリーダーズの3コース制です。昨年はグローバルリーダーズを新設するのに伴って、英語入試を新設するなど各回合計の応募者が増加していました。今年は総合型の新思考力入試を新設していますが、人気は一段落したようで、各回とも応募者が少し減っています。難度面では2月1日午後、2日午後のアドバンス選抜2・3回がやや下がっていますが、他の回は昨年並みで、難度面はあまり変わっていないようです。

品川女子学院は、昨年2月4日の3回を教科横断の表現力・総合型入試に変更しました。今年はその2年目です。昨年は2月2日の2回の応募者が前年並みで、1日の1回と4日の3回がやや減っていましたが、今

年は各回とも少し減っています。これを反映して、1回は合格最低点がやや下がり、少し入り易くなったようですが、2・3回は昨年並みで、難度は維持しています。田園調布学園は、昨年は各回とも少しずつ応募者が減っていましたが、今年は帰国入試がわずかに減ったものの、一般入試は各回とも少し増えています。以前は応募者が減少傾向でしたが、歯止めがかかってきたようです。合格最低点は各回とも昨年並みで、難度も特に変わっていないようです。

跡見学園は昨年、難関大学などを目指すIクラスを新設、在来コースをPクラスとしたコース制を実施したほか、2月1日に初めての午後入試を「特別選考」として新設し、各回合計の応募者数は増えましたが、今年は昨年の反動があったようで減っています。実際の受験者数も減りました。今年は本稿執筆時点で合格最低点が公表されていませんが、上位コースのIクラスはともかく、Pクラスは少し入り易くなったかもしれません。三輪田学園は、昨年は2月1日の1回の応募者がやや減って、2日の2回は前年並み、4日の3回は増えていましたが、今年は1回が増加、2回は昨年並み、3回はやや減っています。合格最低点は1回がやや上がり、2回は昨年並みと、ここまでは応募者数や実際の受験者数に対応する動きでしたが、3回は上昇し、少し難化しています。高学力層の受験生が3回は増えたようです。

恵泉女学園は、昨年は各回合計の応募者数がやや減っていましたが、今年は帰国入試以外が少しずつ増えていて隔年現象的な変化です。プロテスタント校ですが、サンデーショックの戻りの時に入試日程を変更していないため、このように推移したのでしょうか。合格最低点は各回とも昨年並みで、難度も特に変わっていません。香蘭もプロテスタント校ですが、昨年はサンデーショックの戻りの影響で応募者が減っていました。今年は昨年並みですが、合格最低点が下がっています。応募者数や実際の受験者数が変わらなくても受験生の流れが少し変わっているのかもしれません。やや入り易くなったようです。

女子聖学院は昨年英語入試を新設、今年は日本語表現力入試を新設しました。2月5日の5回は応募者が減っていますが、新設入試の効果もあって各回合計の応募者数は昨年並み、実際の受験者数は増加しています。英語入試は日本語表現力入試は難度比較が難しい

のですが、2科4科の入試は各回ともおおむね昨年並みの合格最低点で、難度は特に変化していないようです。玉川聖学院は2月5日の入試を廃止して、主に海外経験がある児童を対象とした面接重視の多文化共生入試を帰国生入試とは別に2月2日に新設しました。各回合計の応募者数は昨年に続いて減っていますが、実際の受験者数はやや減に留まっています。一部しか合格最低点が公表されていませんが、難度面は昨年とあまり変わっていないようです。

中村は昨年、ポテンシャル入試として作文・面接の入試を新設して21世紀型学力の視点からモチベーションの高い児童を迎えようとしています。こうした姿勢は受験生にはまだ浸透していない面もあるようで、昨年は一昨年に続いて各回合計の応募者数が少し減っていましたが、今年もその傾向に変化はなく、減っています。ただ、合格最低点は2月2日午後と5日の入試が上昇、やや難化しています。他の回も昨年並みの水準で、一定の力がないと合格しないことには変わりはなく、特に他校併願前提の受験生には、それなりのレベルを求めています。

附属カラーが強い日大豊山女子は、今年は2月5日と11日に思考力入試を新設、21世紀型教育対応としました。一昨年、昨年と、各回合計の応募者数がやや減少していましたが、今年は増えています。増加の中心は思考力入試と並んで、従来型の2月1日午後、2日午後の特待入試です。他校併願前提の特待入試は人気が上がっているようです。実際の受験者数も増加していますが、合格最低点は各回とも昨年並みで、特に難化したわけではありません。

昭和女子大附属は、昨年グローバル留学コースを新設、在来のコースは本科として2コース制になりました。グローバル留学コースは2月1日のA入試と2日のB入試のみで募集し、3日のC入試は本科のみです。昨年に続いて今年も、各回とも応募者が減っていますが、各回合計の応募者数が約2割減っているのに対して、実際の受験者数は7%程度の減少に留まっています。あらかじめ複数回に出願する受験生が減ったためです。合格最低点はA・B入試が昨年並みですが、C入試は上がりました。C入試は昨年より合格者が増えていますので、応募者が減ったと言っても、「受験生が絞られた」と考えた方が良さそうです。

八雲学園は2月2日午後自己表現入試として、国

算英のうち1科と自己表現作文の入試を新設しました。昨年まで各回とも毎年応募者が少しずつ減っていましたが、人気は反転したようで、1日午後の1回が応募者増、2日午前の2回はやや減ったものの、3日・5日の3・4回は昨年並みで、合計は昨年を上回っています。実際の受験者数も増えていますが、合格最低点は各回とも昨年並みです。なお、2018年度から共学化予定です。独特な存在の女子美大付属は、昨年、今年と2月1日の1回、3日の2回とも前年並みの応募者数が続いていて、人気は安定しています。合格最低点もあまり変わらず、難度面でも安定した入試でした。

カトリックの目黒星美は2月2日午前の発想力入試を1日午前に移動、2日午前の2科4科入試を午後に移して2日のみとしました。このところ同校は入試の変更が活発です。昨年は、多くの回次で応募者が昨年以上回り、合計でも上回りました。今年は2日午後の2回が昨年の午前入試よりも応募者を増やしていますが、他の回は少し減っていて、合計でも減っています。志望順位が高い受験生よりも他校併願前提の受験生に人気は移ってきています。合格最低点は2回の午後入試が少し上がっていて、やや難化したようですが、午前入試は各回とも少し下降していて、逆にやや入り易くなったようです。

文化学園大杉並は難関進学グローバルコースとシグネットコースの2コース制で、一昨年からは高校に、卒業時に日本とカナダの両方の卒業資格がとれるダブルディプロマコースも設置しています。難関進学グローバルコースはこのコースに直結しています。一昨年は各回合計の応募者数が少し減り、昨年は前年並みでしたが、今年は各回とも応募者が減っています。併願受験生が他校に流れているようです。各回の合格最低点は多少上下がありますが、概ね昨年とあまり変わらず、難度面は特に変わっていないようです。

トキワ松はこのところ各回合計の応募者数が減っていましたが、今年は増加に転じて人気が上がっています。目立って増えたのは2月1日の公立一貫型入試と、2日午後の3回特待で、他校併願受験生が中心です。実際の受験者数も増加していて、1日午前の1回と、1日午後の2回特待はどちらも4科の合格最低点が上がっていますが、各回の入試全体としてみると、難度は大きくは上がっていないようです。文京学院大女子は一昨年、新しい3コース制と、入試科目も1~3回で実

施していた国算+算応用・理・社・英から選択の「文京学院方式」を取りやめ、一般的な2科4科としました。しかし、こうした改革が受験生に浸透せず、各回とも応募者が減ったことから、昨年は入学時点からのコース分けを取りやめ、「文京学院方式」を復活しました。その結果、各回合計の応募者数は増加、実際の受験者数も大きく増えました。今年は2月1日午後、2日午後、3日午後の応募者が少し減っています。他校併願前提の受験生が減少の中心です。合格最低点是一部合格者が少ない回次で上下変動のバラつきが見られるものの、それ以外は昨年並みで、難度は維持した入試でした。

和洋九段は、グローバルコースを新設、既存のコースを本科コースとして2コース制にしました。この関係で2月1日午後と3日午後の入試に英語選択を新設したほか、2月2日午前に適性検査型を新設しています。一昨年、昨年と、各回合計の応募者数は少しずつ増えていましたが、グローバルコース新設の発表が遅かったことなどもあって、2日午前、3日午後は応募者が少し減っています。1日午前午後は昨年並みでした。実際の受験者数はほぼ昨年並みです。合格最低点は1日午前が昨年並み、他の日程は4科で少し上昇している回次も見られますが2科はやや下がっています。

東京女子学園は昨年、2月1日にPISA型入試や英語選択入試を新設しましたが、昨年について各回合計の応募者数は減っています。2月1日の2科4科入試の合格最低点は昨年並みですが、1日のPISA型や英語入試、2月2日午後の1科入試はやや下がっています。少し入り易くなっているようです。

東京家政大附属は昨年新設した2月1日午前の適性検査型を午後に移し、1日午前の英語も含む科目選択型入試を思考力問題も含めた選択としました。昨年は各回合計の応募者数が前年よりもやや減っていましたが、今年は昨年並みです。しかし、実際の受験者数は大きく増加しました。2月2日午後の3回と4日の4回の受験者数の伸びが全体の受験者数の増加につながっています。同校の人気だけでなく、昨年新設した特別奨学のチャレンジ制度が浸透した面もあるようです。合格最低点は各回とも昨年並みで難度面では変化は見られません。

京華女子は、2月5日の入試を廃止し、適性検査型を新設しました。各回合計の応募者数は少し減ってい

ますが、早い日程の入試だけなら昨年並みの応募者数です。実際の受験者数もあまり変わっていません。5日は欠席者が多かった入試ですから、実質的にも昨年並みでしょう。今年も受験者が少ない回次を中心に、一部の合格最低点にバラつきが見られますが、概ね昨年並みの難度でした。佼成学園女子は2月4日午後と6日の入試を廃止しました。一昨年、昨年と応募者数は安定していましたが、当然のことながら各回合計の応募者数は減りました。しかし、実際の受験者数は昨年とほぼ同じです。2月1日午後の応募者が増えたからですが、同校の人気を示すものでしょう。合格者数が少ない一部の入試回次で合格最低点の上昇が目立ちますが、特に難化したわけではなく、難度面は昨年並みでしょう。

北豊島は一昨年まで各回合計の応募者が少しずつ減っていましたが、昨年は少し増えて、今年は昨年並みです。実際の受験者数は昨年に続いて少しずつ増えています。合格者数が少ない回次では合格最低点の上下変動に少しバラつきが見られますが、難度は概ね昨年並みでしょう。

愛国、小野学園女子、川村、神田女学園、国本女子、淑徳SC、成女、聖ドミニコ学園、星美学園、瀧野川女子学園、千代田女学園、東京家政学院、東京女子学院、富士見丘は、例えば星美学園が適性検査型入試を新設するなど、各校ごとに入試の変更が見られますが、今年も小規模の入試でした。聖心女子は中学での募集を帰国生のみとしています。本稿執筆時点で入試結果は未公表でした。

4. 男女校

<難関校～中上位校>

国立の筑波大附属は、一昨年の応募者数がほぼ前年並み、昨年は減少していましたが、今年は男女とも増加しています。以前の男子は隔年現象で応募者が増減していて、この3年ほど傾向が変わっていましたが、元に戻ってきたようです。女子は高倍率を敬遠する傾向が出ていましたが、再び挑戦志向が強くなってきたのかもしれない。高倍率を反映して少し難化したようです。

学芸大世田谷の男子の応募者数は一昨年、昨年とほぼ同じ水準でしたが、今年は増えています。女子は減少が続いていて、一昨年は少し増えましたが昨年は減

少、今年は若干増えました。例年同様、今年も補欠を発表しており、難度面ではあまり変わっていないようです。学芸大竹早は、男女とも昨年に続いて応募者が少し減っています。都立の中高一貫校と競合するため、そちらに流れた受験生が増えているようです。やや入り易くなったかもしれません。

お茶の水女子大附属は共学ですが、男子よりも女子の受験生が大多数です。一昨年は少し応募者が減っていて昨年は増えていましたが、今年は少数派の男子も多数派の女子も昨年並みの応募者数です。難度面も例年並みで、特に変化は見られません。

双子の研究教育で知られる東大附属は、一昨年、昨年に続いて一般入試の応募者がやや減っています。推薦は昨年並みでした。特殊な性格もあって、難度は例年並みだったようです。学芸大国際は、昨年に続いて応募者がやや増加しました。内訳では国内生向けのB方式が少し減り、英語中心のA方式が増えています。国際バカロレアの認定校で、注目度が高まっています。難度は特に変わっていないようです。

私立では、慶應中等部の男子の応募者は増加が続いていましたが、人気が反転したようで今年は少し減っています。女子は一昨年は増加、昨年は微減、今年は増加と、だんだん人気が上がっているようです。1次合格者に2次を行う2段階選抜ですから、難度面は男女とも昨年とあまり変わっていない高難度の入試でした。渋谷教育渋谷は、昨年がサンデーショックの戻りの影響で女子の応募者数が2月1日の1回は減、2・5日の2・3回が増えていて、サンデーショックはほとんど影響しない男子は各回とも増えていましたが、入試が厳しくなりすぎたためか、今年は1回が男女ともほぼ昨年並みの応募者数、2・3回は少し減っています。他校併願前提の受験生が、別の併願校に少し流れたようです。合格最低点は1回的女子が少し上がって、やや難化したかもしれませんが、それ以外は男女とも昨年並みで難度に変化はなかったようです。

青山学院はプロテスタントの学校で、昨年は女子がサンデーショックの戻りの影響を受けて応募者が減少、男子もやや減っていましたが、今年は女子が増加、男子も昨年と同数でした。男子は昨年並みの合格最低点で難度に変化はありませんが、女子は応募者が増えた分、実際の受験生も増えて倍率がアップ、合格最低点も上昇しています。難化した入試でした。

広尾学園は12月の帰国生入試をインターナショナルコースだけでなく、他のコースにも拡大しました。一昨年、昨年と各回合計の応募者数が増えていましたが、今年も増加していて、人気が上がっています。帰国生入試を拡大していますが、増加の中心は2月1日からの一般の入試で、5日の入試は応募者が減ったものの、1日午前、午後、2日午後の本科、医進サイエンス、インターナショナルAG・SG入試とも増えています。男子も増えていますが、増加の中心は女子です。1日午前は昨年並みの合格最低点で、難度に変化は見られませんが、1日午後はやや上がっています。2日午後と5日は少し下がっていますが、入り易くなった印象はありません。出題の難度が少し上がったと考えた方がよさそうです。

国学院久我山は、昨年まで各回合計の応募者数の増加が続いていましたが、今年は男子が少し減って、女子は昨年並みと言ってよいくらいの微減でした。しかし、多くの回次で昨年よりも実際の受験者数が増えています。あらかじめ複数回に出願しておく件数が減ったための応募者減少で、人気はむしろ上がっています。ウェブ出願の実施で受験生の動きが変わった結果です。合格最低点は2月2日の2回の男子、5日の3回の男女が上がっていて、やや難化したようです。STを含む他の回次は概ね昨年並みで、こちらは難度に変化は見られません。

東京農大第一は、一昨年は応募者が少し増えて、昨年は少し減り、今年はまた少し増えて隔年現象的な変化です。実際の受験者数も同じ傾向ですが、欠席率が昨年より下がっていて、受験者数の方が高い増加率です。合格最低点は2月1日午後の1回、2日午後の2回が昨年並みで難度に特に変化はなかったのですが、4日の3回は上がって少し難化しました。淑徳は東大セレクトとスーパー特選の2コース制です。昨年は帰国入試と2月3日のスーパー特選3回以外は応募者が前年を上回り、スーパー特選3回も実際の受験者数は前年を上回っていましたが、今年は各回男女ともやや応募者が減っています。一昨年少し減っていましたが、隔年現象でしょう。併願受験生が多い学校なので難度面では東大セレクトコース、スーパー特選コースとも昨年とあまり変わらない水準だったようです。

東京都市大等々力は、2月4日のS特チャレンジ入試を、論文を含む思考力・協働力入試に変更しました。

21 世紀型教育対応です。昨年は各回とも応募者が大きく増えましたが、今年は少しずつ減っています。しかし、実際の受験者数はほぼ昨年並みで減っていません。もともと複数回同時出願の受験生が多く、比較的欠席率が高めだったのが、必要な入試だけ出願する受験生が増えてきたのが応募者減少の理由です。合格最低点はやや上下して、2月1日午後の1回特選と2日午前の2回特選・特進、3日午後のS特チャレンジはやや下がっています。入り易くなったというよりは、人気の上昇につれて出題の難度が少しずつ上がってきたことから、その影響が強いようです。他の回次は昨年並みの合格最低点で、難度の面では昨年並みでしょう。

<中上位校～中堅までの各校>

比較的内部進学率が高い大学系の学校から見えます。成城学園の応募者数は、昨年は2月1日・3日の1・2回とも男子の増加が目立ち、女子は前年並みでしたが、今年は2回とも男子が減少、女子は小幅ながら増加しています。もともと女子の人気が高い学校です。昨年は例外だったのかもしれませんが。合格最低点は男女2回とも昨年とあまり変わっておらず、難度は変化していません。日大系列校の中では比較的進学校カラーが強い日大第二は、昨年まで応募者数にあまり大きな変動は見られず、安定した人気でしたが、今年は2月1日の1回、3日の2回の男女とも増加していて、人気が上がりました。昨年、グランド整備も含めた校舎の新築が完成した効果もあるでしょう。1回は男女とも合格最低点がやや上がって難化しています。2回は昨年並みで、難度に変化はなかったようです。日大第一は日大第二より付属カラーが強い学校です。昨年は入試増設の効果もあって、応募者が増えていましたが、今年は厳密にはやや減っているものの、概ね昨年並みの応募者数でした。男女別では、昨年増えた男子が少し減って、その分女子が増えています。合格最低点は人数が少ない2月5日の最終回でやや変動があるものの、それ以外は昨年並みで、各回とも難度はあまり変わっていないようです。

東海大高輪台は一昨年から3回入試となり、一昨年、昨年と各回合計では応募者数が増えていましたが、今年は各回とも少しずつ減っています。実際の受験者数も減っていますが、減少の中心は男子で、女子は概ね

昨年並みです。男子受験生が他校に流れたようです。合格最低点は、2月1日の1回がやや上がっていますが、難化するほどではありません。ただ3日の2回と5日の3回は下がっていて、入り易くなったようです。

次に付属ではない学校や付属カラーの薄い学校を見ていきます。三田国際学園は一昨年、女子校の戸板が共学化、イメージを一新した学校で、一昨年は各回合計の応募者数が前年の11倍近くにのぼり、昨年一昨年来を4割近く上回り、今年もさらに増えて人気が上がっています。実際の受験者数もかなり増えていますが、合格者は逆に絞っています。2月1日午前の1回は昨年の実質倍率よりもやや上がった程度ですが、1日午後の2回から上昇が目立ち始め、特に3日午後の4回、4日午後の5回はかなり上がっていて、合格最低点にも反映しています。同校はインターナショナルと本科の2コース制で、本来は教育内容の違いでコースが分かれていてレベルの違いではありませんが、昨年は各回ともインターナショナルの方が本科よりも合格最低点がやや高く、実質的なレベルの違いが見られました。それが今年は同水準で、本科が高い回次も見られました。本科が難化したこととなります。1回～3回はインターナショナルが昨年並みの難度、本科は難化、4・5回は両コースともかなり難化した入試でした。

開智日本橋学園も大きな改革で、以前の日本橋女学館のイメージがなくなった学校です。一昨年は各回合計の応募者数が前年の約7倍、昨年は一昨年の約2倍と、ものすごい勢いで応募者が増えていましたが、今年も増えて、人気は上昇を続けています。埼玉県の開智の実績と、開智を超える国際性を備えた教育内容への期待です。実際の受験者数も増加しましたが、合格者は逆に絞っていて、昨年の6割ほどしかいません。多くの不合格者が出ていて、高倍率の難化した入試でした。

男子校から一昨年共学化し、北区赤羽から文京区白山に移転した東洋大京北は、一昨年は応募者が大きく増えたものの、難化で昨年は男子が減っていましたが、今年は2科4科入試から記述・論述型の哲学入試に切り替えた2月4日の入試を除いて、各回男女とも応募者がやや増えました。ところが応募者の増加は合計で4%程度なのに対して、実際の受験者は2割以上増加しています。同校は哲学入試を除いて、すべて1月30日に出願を〆切っていますから、同校を希望する受験

生が全体的に増えていることとなります。合格最低点も1日午前の1回は昨年並みですが、1日午後の2回、2日午前の3回は上がっていて、少し難化しています。

青稜は、昨年は応募者が大きく増えていましたが、それを背景に今年は2月5日の入試を廃止しました。通常、このような対応を行うと、存続する入試回次にも敬遠ムードが出てくることが多いのですが、同校もやはり2月1日午前、午後、2日午前、午後とも応募者数がやや減って、実際の受験者数もそれに伴って減っています。1日午前は第一志望の受験生に配慮したようで、合格最低点は少し下がって入り易くなっていますが、併願受験生が多い午後は合格最低点が上昇、難化しています。2日は午前午後とも昨年並みの合格最低点で、昨年上がった難度を維持しています。おそらく学校側の期待通りの結果だったでしょう。

順天は、昨年まで隔年現象で各回合計の応募者数が増減していましたが、今年は順番通りではなく少し減っています。減少の中心は男子で、2月1日午前午後は小幅な減少ですが、他の日程は目立っています。他校併願の受験生が他校に流れたのかもしれませんが。女子も各回とも少し減っています。ただ、合格最低点は各回とも昨年とあまり変わっておらず、難度面では変化がなかったようです。

帰国生指導に力を入れている男女別学のかえつ有明は、今年は2月4日の思考力入試を難関対応からアクティブラーニング対応に切り替えています。一昨年、昨年と各回合計の応募者数が少しずつ減っていた同校ですが今年は昨年並み、厳密には若干増加しています。内訳では帰国生入試が今年も増加していて、2月1日からの入試は若干減っています。同校によると、帰国生入試では英語力が英検2級レベル以上の受験生ばかりになったとのことで、入学後もそのレベルからの英語の授業になります。グローバル化対応で人気が高い同校ですが、帰国生とは別クラスとはいえ、高度な英語力を身に着けた生徒が多くなっていることに少し敬遠気味の受験生も出ているようで、それが2月1日以降の入試の応募者の減少につながっているのでしょう。合格最低点は3日午後以外の4科入試を今年から200点満点に換算しているため、単純比較は難しいのですが、3日午後はやや難化、逆に1日午前は少し入り易くなっているかもしれません。他の入試は概ね昨年並みの難度でしょう。

宝仙学園理数インターは昨年新設した日本語ヒアリングとプレゼン型面接のリベラルアーツ入試を2月1日午後と4日午後の2回に増設するとともに、同じスタイルで主に英語プレゼンテーションを行うグローバル入試も新設しました。さらに公立一貫・リベラルアーツ・グローバル入試を2月10日に特別入試として追加設定しています。一昨年、昨年とやや減っていた各回合計の応募者数は反転して大きく増えています。リベラルアーツ入試やグローバル入試に多くの受験生が集まったためではなく、2月1日に適性検査型入試を増設して多くの受験生が集まったことが理由です。2月2日の既存の適性検査型入試は応募者が少し減りましたが、それをかなり上回る受験生が1日に集まりました。難度面では各回とも昨年とあまり変わっていないようです。さて、リベラルアーツ入試とグローバル入試は小規模ですが、従来型の学力観とは異なる力を見るもので、この入試で合格した受験生がどれだけ入学後活躍するかでこの入試の評価が決まります。評価が上がればこうした入試を実施する学校はもっと増えるでしょう。まだ2年目ですが今後注目したいものです。

駒込はスーパーアドバンス・アドバンスの2コース制です。今年他コース合格はあるものの、2コースでそれぞれ別々に実施していた入試を一本化、入試の結果でコースを決める方式に変更しました。高校入試では多くの学校が実施していますが、中学入試では珍しく、共栄学園や埼玉県などの一部の学校で実施されています。各回合計の応募者数は一昨年まで少しずつ増え続けていて、昨年はほぼ一昨年と同数でしたが、今年は再び少し増えています。増加の中心は2月1・2日の午前入試で、志望順位が高い受験生が増えたのでしょう。実際の受験者数も合計ではやや増えています。難度面ではあまり変わっていないようです。

文教大付属は、2014年まで応募者の増加が続いていましたが、人気が上がすぎたのか、一昨年以降は各回合計の応募者が少しずつ減っていて、今年もその傾向は続いています。毎年のように小幅ですが難化が続いてきたこともあって、敬遠ムードが出てきたのかもしれませんが。2月2日の3回の男子や4日の5回の男女は4科の合格最低点が少し下がっていますが、2科の最低点は昨年並みで、他の回次は2科、4科とも昨年並みですから、入り易くなったわけではなく、難度

は各回とも昨年とあまり変わっていません。

安田学園は、先進特待と総合の2コース制で、昨年は各回合計の応募者数がやや減っていましたが、今年は昨年並み、実際の受験者数も昨年とほぼ同じです。各回次では少し増減が見られ、先進特待は各回とも増加、総合は減っています。人気の中心は先進特待で、同校受験生の平均的な学力レベルは上がっています。合格最低点は2月1日の適性検査型の先進1回と、2日午後の先進3回が少し下がっていますが、特待の性質上、入り易くなったわけではなく出題が少し難しくなったのでしょうか。難度は動いていないと思われます。他の回次はいずれも昨年並みで、こちらも難度に変化は見られません。

淑徳巣鴨は特進と進学の2コース制でしたが、進学コースの募集を停止して、スーパー特選コースを新設、特待(スカラシップ)入試としました。また、2月2日の特進入試は2科4科選択から、未来力入試として適性検査に近い思考力入試に変更しています。このような大きな変更がありましたが、受験生に支持されたようで、各回合計の応募者数は増加、実際の受験者数も増えて、進学コースの受験生を失ったことよりもスーパー特選コースの受験生を獲得したことの方が大きい結果でした。コース設定が変わっていることから、合格最低点の単純な比較はできませんが、特進コースは昨年までよりやや入り易くなって進学コースの上位レベル、スーパー特選コースは特進コースの上位レベルくらいだったようで、1ランクずつ難化したこととなります。

多摩大目黒は特待特進と進学の2コース制です。一昨年、昨年と各回合計の応募者数がやや減っていましたが、今年は増えています。増加の中心は特待特進入試で、昨年までの減少傾向から人気が反転していますが、進学入試はやや減っていて、やはり上位コースが人気です。本稿執筆時点で合格最低点が未公表ですので、単純比較はできませんが、難度面では特待特進、進学とも昨年とあまり変わっていないようです。立正大立正は一昨年、昨年と各回合計の応募者の減少が続いていましたが、今年は増加に転じました。特に入試に変更があったわけではなく、学校の人気そのものが上がったためでしょう。合格最低点は遅い日程で合格者が少ない回次では上下にバラつきが見られますが、2月1日午前・午後は、難化とまでは言えないものの、

若干上がっています。城西大城西は昨年GAと普通の2コース制を取りやめ、単一コース制としています。昨年、今年と、各回合計の応募者数は少し減っています。ただ、欠席率は下がっていて、実際の受験者数は逆に小幅ですが増加しています。複数回にあらかじめ出願する受験生の減少がはっきり表れていて、人気は下げ止まったようです。合格者が少ない回次が多いため、合格最低点の上下変動が目立ちますが、難度は特に変わっていないようです。

郁文館は毎年のようにコースを新設したり、各入試タイプを新・増設して変更が活発です。今年は作文・面接だった未来力入試を、「ルーブリック評価型入試」として、プレゼン中心に変更したほか、特別奨学生入試を2月4日に増設しています。「ルーブリック」は、点数ではない評価手法で、欧米では学校での通常の成績評価に用いられます。小学校の通知表に「観点別評価」の欄がありますが、手法としてはこれに近いもので、事前に受験生に評価の尺度が公開されるものです。以前の勢いが失われてきて、応募者の減少が続いた同校ですが、こうした積極策で一昨年から各回合計では増加に転じ、今年も増加が続いています。増加の中心は適性検査型の各回の入試です。入試の変更点が多いことと、特に2科4科の入試は2月2日以降小規模になることから、合格最低点の変動はバラつきが大きく、単純比較は難しいのですが、難度面では昨年並みか、やや入り易くなっているかもしれません。なお、同校の特別編成入試は日程が遅く、本稿〆切時点ではまだ入試結果が出ていません。

東京成徳大は、昨年の各回合計の応募者数がやや減ったものの、志望順位が高い受験生が多い2月1日午前は増えていましたが、今年は逆に1日午前の応募者が減っていて、女子よりも男子の減少が目立っています。1日午後も男子は減少していますが、女子は昨年並みでした。他の回はやや増減があるものの、概ね昨年並みの応募者数で、志望順位が高い、特に男子受験生が他校に流れたようです。合格最低点は1日午前と5日が昨年並み、1日午後はやや下がっていますが、2日午前・午後と3日はやや上がって、回次によって少し上下しているようです。

帝京大帝京は一昨年、昨年と各回合計の応募者数が少しずつ増えていましたが、今年も傾向は変わらず少し増えていて、人気徐徐に上がっています。実際の

受験者数も増えていますが、難化するようなことはなく、各回の合格最低点は昨年並みです。

桜丘は一二月1日午後の思考力入試を2日午前に移動しています。一昨年まで各回合計の応募者数が少しずつ増えていましたが、昨年に続いて今年もやや減っていて、実際の受験者数もそれに依じて減っています。難度面では昨年とあまり変わっていないようです。共栄学園は特進と進学の2コース制です。一昨年、昨年と、各回合計の応募者数は少しずつ増えていましたが、今年2月1日午前が昨年並みだったものの、他の回は各回ともやや減っています。全体的に合格者が少ない入試回次が多いことから、合格最低点は昨年に比べ、上下変動にバラつきが見られますが、難度面では特に変化はなかったようです。

目白研心は昨年から入学時からの特進・選抜の2コース制を取りやめ、一昨年新設した中3からのスーパー・イングリッシュ・コースなど、グローバル化対応を前面に打ち出すようになって。各回合計の応募者数は、一昨年は増加したものの、昨年、今年と少し減っています。志望順位が高い受験生、併願前提の受験生とも減っていて、グローバル化対応がなかなか受験生に浸透していないようです。合格最低点は、受験者数が少ない回次で少しバラつきが見られるものの、概ね昨年並みの難度でしょう。実践学園は新タイプの入試として2月4日に日本語表現力の入試を新設しました。各回合計の応募者数は一昨年がやや増えて、昨年は昨年並み、今年増加しています。新設の入試の効果もありますが、他の回次も多くが少しずつ増えていて、人気を上向いています。実際の受験者数も増えていますが、新設の入試は応募者数の割に受験者数は多くはありませんでした。日程が遅いことと、同校の早い日程に出願している受験生が多かったからでしょう。合

格最低点は合格者が少ない一部の回次でバラつきが見られますが、難度面は総じて昨年と変わっていないようです。

日本工大駒場は得意科目選択入試や自己アピール入試を新設しました。一昨年まで各回合計の応募者数が少しずつ減っていましたが、昨年は一昨年並みで、今年増加、人気を上向いてきました。実際の受験者数は昨年に続いて今年も増えていますが、合格最低点は2月5日の5回が少し上がっていますが、他の回は昨年並みで、難度に特に変化は見られませんでした。上野学園はもともと音楽学校としてスタートした学校です。アドヴァンストとプロGRESSの2コース制で大学受験体制に結びつくコース制ですが、音楽専攻も選択できる学校です。各回合計の応募者数は、少しずつですが一昨年から毎年増え続けていて、今年も増えています。1つ1つの回次の入試規模が小さいため、合格最低点はかなりバラつきがありますが、総じて難度は昨年並みだったようです。

駿台学園は特選・総合の2コース制です。昨年は小規模な入試でしたが、今年は総合コースの女子の応募者が増えていて、各回合計では小規模の水準から脱しています。ただ、複数回出願者が多く、実際の受験者数は応募者数ほどは増えていません。両コース各回とも昨年並みの難度でした。この他、成立学園、国士館、貞静学園、東京立正、新渡戸文化、日出、武蔵野、目黒学院は、例えば日出が適性検査型入試を新設して、応募総数は昨年の2倍、実際の受験者数も2割増えるなどの入試の変更に伴う受験状況の変化が見られた学校もありましたが、今年も小規模な入試でした。なお、修徳、松蔭、東邦音大東邦、高校を併設してない清明学園は本稿執筆段階では入試結果未公表でした。

※本概況は、2017年2月15日までに回答のあった学校アンケートに基づき作成しています。2月15日以降変更等ある場合がありますので、ご了承ください。

● 東京23区 難易度別グルーピング ●

2ページのグラフは、各校の代表的な今春の入試に向けての直前予測における難易度(今春の受験生が志望校決定の参考にしたと思われる難易度、結果偏差値ではありません)をもとに、東京23区私国立中を次のようにグルーピングして作成しました。公立一貫校は合否分布の幅が広いので、ここでは外しています。また、特待入試等では特待生合格を前提とした難易度です。なお、このグルーピングは学校ごとの教育内容の優劣を表すものではありません。

A…麻布・海城・開成・駒場東邦・筑波大駒場・武蔵・早稲田・早大学院・桜蔭・女子学院・豊島岡女子・
 雙葉・お茶の水女子大・慶應義塾中等部・渋谷教育学園渋谷・筑波大附属

B…学習院・暁星・攻玉社・芝・城北・巣鴨・世田谷学園・高輪・東京都市大付属・本郷・明大中野・
 立教池袋・鷗友学園・大妻・学習院女子・共立女子・品川女子学院・頌栄女子学院・白百合学園・
 東京女学館・東洋英和・富士見・普連土学園・立教女学院・青山学院・国学院久我山(S T)・淑徳(東大)・
 東京学芸大国際・東京学芸大世田谷・東京学芸大竹早・東京都市大等々力(S特選)・東京農大第一・
 広尾学園

C…足立学園(特奨)・佼成学園(特奨)・芝浦工業大附属・成城・獨協・江戸川女子・
 大妻中野(アド・グローバル)・恵泉女学園・光塩女子・香蘭女学校・田園調布学園・三輪田学園・
 八雲学園・山脇学園・開智日本橋・かえつ有明(特待)・国学院大久我山(一般)・淑徳(スーパー)・順天・
 成城学園・青稜・東大附属・東京都市大等々力(特選・特進)・東洋大京北・日大第二・
 宝仙学園理数インター(特待)・三田国際・安田学園(先進特待)

D…足立学園(一般)・京華(特選)・聖学院(特待選抜)・日大豊山・跡見学園・大妻中野(コア)・麴町学園女子・
 佼成学園女子(特奨)・実践女子学園・十文字(スーパー)・昭和女子大昭和・女子聖学院・女子美術大付・
 東京家政大附属・トキワ松学園(特待)・中村・日大豊山女子・文化学園大杉並(難進)・目黒星美・
 郁文館(特奨・特選)・かえつ有明(一般)・駒込・淑徳巣鴨・多摩大目黒(特待特進)・東海大高輪台・
 東京成徳大・日大第一・文教大付属・宝仙学園理数インター(一般)・安田学園(一般)・立正大立正(特待)

E…京華(一般)・佼成学園(一般)・聖学院(一般)・日本学園・愛国・小野学園・川村・神田女学園・北豊島・
 国本女子・京華女子・佼成学園女子(一般)・十文字(一般)・淑徳S C・成女学園・聖ドミニコ学園・
 星美学園・玉川聖学院・瀧野川女子学園・千代田女学園・東京家政学院・東京女子学院・東京女子学園・
 トキワ松学園(一般)・富士見丘・文化学園大杉並(一般)・文京学院大女子・和洋九段女子・郁文館(一般)・
 上野学園・共栄学園・国士館・桜丘・実践学園・修徳・松蔭・城西大附属城西・駿台学園・清明学園・
 成立学園・多摩大目黒(進学)・帝京大帝京・貞静学園・東京立正・東邦音大東邦・新渡戸文化・
 日本工業大駒場・日出・武蔵野・目黒学院・目白研心・立正大立正(一般)